

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 愛媛県
都道府県 愛媛県
対象地域 愛媛県上島町
対象品目 レモン



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

持続的に効果を発揮し省力化が期待できる有用昆虫天敵資材と有機JAS適合資材であるマシン油、気門封鎖剤、銅剤等を活用した栽培技術及び、高窒素成分の有機質肥料を用いた省力化技術の検証を実施し、これらの技術を活用した栽培マニュアルを策定した。今後は、マニュアルをもとに有機栽培技術の指導を行い、町内のレモン有機栽培の面積拡大に努める。

現在の栽培体系

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	施設	化学農薬散布	化学農薬散布	化学農薬散布	化学農薬散布	化学農薬散布	化学農薬散布	化学						地域減農薬様栽培指針
	露地	有機JAS適合農薬	化学農薬散布	化学農薬散布	化学農薬	化学農薬	化学農薬	化学農薬				有機JAS適合農薬散布	有機JAS適合農薬散布	
技術名				有機化成肥料散布		有機化成肥料散布			有機化成肥料散布				有機化成肥料散布	

グリーンな栽培体系

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	施設			有機JAS適合農薬散布			有機JAS適合農薬散布					有機JAS適合農薬散布		詳細は「レモンのグリーンな省力栽培体系」マニュアル参照
	露地	有機JAS適合農薬散布		有機JAS適合農薬散布	有機JAS適合農薬散布		有機JAS適合農薬散布	有機JAS適合農薬				有機JAS適合農薬散布		
技術名				スバィカルプラス 高窒素有機肥施用		高窒素有機肥施用			高窒素有機肥施用				高窒素有機肥施用	

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	0.3	0.7	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.08	0.7	目標0.7haうち露地0.1ha
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.08	0.7	目標0.7haうち露地0.1ha
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.08	0.7	目標0.7haうち露地0.1ha

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学合成農薬の散布	▶ ハダニの天敵資材（スパイカルプラス）の設置 有機JAS適合資材の散布（イオウフロアブルやサフ オイル、銅材等）	化学合成農薬の削減 病害虫被害の軽減 作業時間の削減
環境 省力	有機化成肥料の散布	▶ 高窒素成分の有機質肥料の施肥 (N10)	化学肥料の削減 散布時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	ハダニ防除回数の削減	1	▶ 0	
環境	肥料散布時間の削減	—	▶ 5%以上削減	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・普及指導員やJA営農指導員等が中心となって、栽培講習会や個別巡回指導等の際に、栽培マニュアルを元に微生物資材や有機JAS適合資材の活用技術や、有機質肥料施用の推進を行う。
- ・技術導入農業者からの技術評価や栽培データを収集し、そのデータを活用してさらなる技術普及に努める。

関係者の役割

関係者名	今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班岩城駐在	JAおちいまばり 等集荷業者	農業者
役割	栽培指導 検証圃場の管理・調査 栽培、産地データの収集	農業者との調整 栽培指導 技術の広報 資材の手配	栽培、産地データの提供 栽培技術検証と検討

その他